

議題1) 委員会での議論から浮かび上がった検討テーマについて

「文化・芸術による、心の復興と想いの継承(仮)」

① これまでの委員会での紹介事例・視点

<震災発生後の様々な動きや取り組み> ※第1回委員会(平成25年7月2日開催) 資料内容再掲

■ 文化・芸術・スポーツなどによる復興に向けた活動

● 事例

- ・ 大震災復興支援プロジェクト(MMIX LAB)
- ・ 3.11メモリアルプロジェクト(MMIX LAB)
- ・ Re:プロジェクト(市民文化事業団)
- ・ 復興提言シンポジウム(音楽の力による復興センター・東北)
- ・ 復興コンサート(仙台フィルハーモニー管弦楽団)
- ・ 宮城・東北 Dream Project(ベガルタ仙台)
- ・ ベガルタ仙台レディース創設(ベガルタ仙台)
- ・ がんばろう東北 被災地招待事業(楽天イーグルス)
- ・ スポーツチャリティーマッチ等の開催(bjリーグ他)

● 視点

- ・ 被災地における震災遺構の保存に向けた取り組み
- ・ 国や民間企業によるアーカイブの発信
- ・ **文化・芸術・スポーツによる復興に向けた活動**



「震災の記憶」
「震災前の暮らしや人々の記憶」
「復興に立ち向かう思い」

これらを留めるための
取り組みが必要
||
復興のシンボル

<3.11のあり方・過ごし方> ※第4回委員会(平成25年12月20日開催) 資料内容再掲

● 事例

震災	東日本大震災関係事例	阪神・淡路大震災関係事例	中越大震災関係事例
取組み名(実施主体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災仙台市追悼式(仙台市) ・ キャンドルナイト2013「かがやけ 仙台～震災の記憶を胸に～」(公益社団法人仙台青年会議所) ・ 3.11 星空プロジェクト(3.11 星空プロジェクト) ・ 3.11 追悼チャリティー炊き出しグラブ(一般社団法人 エコ食品健究会) ・ みやぎ鎮魂の日(宮城県)【追加】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神・淡路大震災 1.17 のつどい(「阪神・淡路大震災 1.17 のつどい」実行委員会) ・ ひょうご安全の日のつどい(ひょうご安全の日推進県民会議) ・ 1.17 防災未来賞「ほうさい甲子園」(兵庫県、毎日新聞、公益財団法人ひょうご、震災記念21世紀研究機構) ・ 1.17KOBE に灯りを in ながた(1.17KOBE に灯りを in ながた実行委員会) ・ 神戸ルミナリエ(神戸ルミナリエ組織委員会) ・ わたしの 1.17(神戸新聞社) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山古志復興イベント「ありがとう広場」「追悼式」(山古志住民会議、長岡市) ・ 川口復興イベント「SONG OF THE EARTH」(S.O.T.E 実行委員会、NPO 法人にいがたからみんえがおに) ・ 川口きずなマラソン(長岡地域復興支援センター、川口サテライト)

● 視点

- ・ 東日本大震災のあったあの日、あの日々私達が体験し、思ったことを見つめ直す
- ・ 自ら被災し大変な思いをしながらも、他人に対する心配りや心遣いをしていたという思い
- ・ あの日不安や心配の中で「絆」によって安心や温かさ、優しさに包まれて未来への希望を確かなものにする事ができたという思い

② これまでの委員会での意見

■ 心の復興

- ・ 震災後は文化、スポーツの活動が大きな励みとなった
- ・ 音楽の力、あるいは広い意味での文化、芸術の力というのがより大きな推進力になる
- ・ スポーツでも音楽でもアートでも NPO などがコミュニティとして使えるような溜まり場があれば、何世代の人たちとの交流も生まれるし、何かあった時にはそこに逃げれば良いという防災の拠点にもなる
- ・ 被災地の祭りなどソフト面のメモリアルも重要
- ・ 音楽の力、文化、芸術の力を使ったメモリアルホールの実現

■ 3月11日の過ごし方

- ・ 仙台市が先頭を切って3月11日を休みにして、考える日とする

■ 防災文化

- ・ 学校ごとなどの地域の独自性のある防災マニュアルづくり

③ 本日も議論いただきたいこと

● 論点

「文化・芸術による、心の復興と想いの継承(仮)」の、メモリアルとして位置付けと、誰が何をすべきか